

「キックバック廃止」

監修料問題で厚労相表明

厚生労働省と社会保険庁の職員が書籍などの「監修料」名目で出版社などから多額の現金を受け取っていた問題で、尾辻秀久厚生労働相は二十日の参院予算委員会で、「契約額の一割」といった仕事量に関係ない形で監修料を受け取ることは

全廃する方針を明らかにした。現在進めている省内調査の結果は、早ければ今週中に公表すると述べた。

監修料をめぐるのは、厚労省側が補助金を出したり、まとめて買い上げた冊子などで、職員が慣例的に契約額の一割前後

を監修料として受け取っていた事例が発覚。尾辻厚労相は「一千万円の仕事をだして、きっちり一割だから百万円戻ってきたというのはキックバックの形で、絶対にまずい。今後一切やらない」と述べた。大塚耕平議員（民主）への答弁。

監修料問題では「選択エージェンシー」から職員七十八人が計七千万円
余りを受けとっていたことが今春判明。その後、同省国民健康保険課の職員が同社以外からも一億五千万円近くを受領していたことが分かり、省内を続けている。